

肘掛カバー設置の詳細

1. 肘掛けカバーは、発泡スチロールのようなもので作成されたのですか？

(導入品)

こちらは実際に導入したものです。ダイソーにあった「発砲レンガ」と「発砲板」を使用し、肘を置く部分を硬い発砲レンガをそのまま使用し、肘掛けにはめ込む部分を加工しやすい発砲板で作成しています。

発砲板は薄く加工しやすいため、肘掛けの幅にぴったり合うようにして、数枚重ねて使用しています。

(試作品)

こちらは試作品です。

すべて発砲板で作成しています。テーブルと椅子の組み合わせでテーブル高さの差が変わるため層を重ねて調整していました。また、肘掛けにはめ込む部分も層の数で深くしたり浅くしたりできます。

※最終的に多少の段差はタオル等で調整できたため層の必要性は薄れました。ただ、層が増えると製作に手間が掛かり、肘を置く部分は圧力が掛かり変形しやすいため、左の導入品の形になりました。



2. 肘掛けカバーは、いすの肘掛けに溝の様な凹みをつくって、はめ込んでいるだけでしょうか？何か椅子の肘掛けに固定しているのでしょうか？

肘掛けカバーの方を溝ができるように作っており、肘掛けにはめ込む形になります。発砲板間を肘掛けに合わせて作っているため、ギョツとはまり横にずれることはほぼありません。一方で、肘掛けにそって前後には容易にずらすことができるため、利用者様の状況（関節の可動状況、座ることができる深さ、テーブルとの距離等）に合わせてテーブルとの隙間ができないようにできます。

※場合によって、キャリーバッグに使用するゴム製のベルトを使用して固定してもよいと思います。

3. 肘掛けカバーの幅は、6. 5cm 位でしょうか？

肘掛けカバーの幅は、発砲レンガの幅になります。写真の発砲レンガの幅は10cmです。試作品の方であれば幅は変えられますが、肘掛けの中心からシンメトリーにしておかないと肘を置いたときにずれて不安定になる恐れがあります。

他に、発砲レンガを2段にして、取り外して調整できるものも作成しました。これは、上肢の動きがある程度ある方に自力動作を促す場合に1段で使用する、体格がよく座高が高い方が天板の高いテーブルを使用する場合に2段で使用する、逆に体が小さく低いテーブルを使用する（足底が床につくよう椅子自体の座面も下げている）場合に1段で使用する、等、使い分けられるようにしました。実際は、使用する方は概ね固定されるため、常用というよりは、椅子座位での評価時に使用していました。



※発砲レンガ同士はマジックテープで付け外しできるようにしています。